

平成11年度優秀映画鑑賞推進事業

喜びも悲しみも幾年月

どん底

酔いどれ天使



日本の悲劇

雪之丞変化

ぼんち

丞変化

日本映画史を代表する不朽の名作を一堂に

# 日本映画名作劇場

黒部市国際文化センター **コラーレ**  
(カーターホール)

— 上映日程 —

入場料/一回券 **500円**

三回券綴り **1,000円**  
※チケットは全映画共通です。

■ お問い合わせ  
財団法人黒部市国際文化センター  
TEL(0765)57-1201 FAX(0765)57-1207



|         |       |                                    |
|---------|-------|------------------------------------|
| 2月3日(木) | 19:00 | 酔いどれ天使 (黒澤 明監督/1948年/98分/白黒)       |
| 2月4日(金) | 19:00 | どん底 (黒澤 明監督/1957年/125分/白黒)         |
| 2月5日(土) | 13:00 | 日本の悲劇 (木下恵介監督/1953年/116分/白黒)       |
|         | 16:00 | 喜びも悲しみも幾年月 (木下恵介監督/1957年/160分/カラー) |
|         | 19:30 | 酔いどれ天使 (黒澤 明監督/1948年/98分/白黒)       |
| 2月6日(日) | 10:00 | ぼんち (市川 崑監督/1960年/104分/カラー)        |
|         | 13:00 | 雪之丞変化 (市川 崑監督/1963年/113分/カラー)      |
|         | 16:00 | どん底 (黒澤 明監督/1957年/125分/白黒)         |

# 作品リスト

## ■酔いどれ天使



〔1948年 東宝〕

脚本……………植草圭之助  
 監督・脚本……………黒澤 明  
 製作……………本木荘二郎  
 撮影……………伊藤 武夫  
 照明……………吉沢 欣三  
 録音……………小沼 渡  
 音楽……………早坂 文雄  
 美術……………松山 崇

### 〔出演者〕

志村 喬 三船 敏郎 山本礼三郎  
 木暮実千代 中北千枝子 千石 規子  
 笹置シズ子 殿山 泰司 久我 美子  
 飯田 蝶子

メタンガスが泡立つ汚濁の泥沼、真夏の蒸暑い夜に切ないギターの調べが流れる。ふと弦の調子が変わって人殺しの唄が聞こえる。ムシヨから狂気の岡田が帰ってきたのだ。突きつけるようなイメージで物語が進行していく。場末の酔いどれ医者と結核病みのチンピラとの交流。終戦期の混乱の中、黒澤監督自身も東宝争議の渦中であって、この作品により、自らの道が開けたと語っており、聖と賤、善と悪の対立といったテーマ以上に、三船敏郎や志村喬、音楽家の早坂文雄との出会いには強烈なものがあつた。脚本を書いた植草圭之助は、赤線地帯の飲んだくれ医者を実際に見ることで、最初考えたヒューマニストの青年医者を変更せざるを得なかったという。

(白黒 スタンダード 98分)

## ■喜びも悲しみも幾歳月



〔1957年 松竹(大船)〕

原作・脚本・監督……………木下 恵介  
 撮影……………楠田 浩之  
 音楽……………木下 忠司  
 美術……………伊藤 熹朔  
 〃……………梅田千代夫

### 〔出演者〕

高峰 秀子 佐田 啓二 中村賀津雄  
 有沢 正子 桂木 洋子 田村 高広  
 伊藤 弘子 北 龍二 夏川 静江  
 仲谷 昇 三井 弘次 桜 むつ子

『陸軍』『笛吹川』『永遠の人』『香華』など、木下恵介は長大な時の流れを描く年代記的な作品を多く扱った監督である。スクリーンの上で年齢を重ねて行く俳優の演技も見所となるこのような物語の形態は、『花咲く港』や『カルメン故郷に帰る』『破れ太鼓』といった喜劇的な系列の作品群と表裏をなして、木下の作家的イメージを形成している。『二十四の瞳』( '54年)の路線を意図して企画されたこの作品では、僻地を転々としながら寄り添って生活する灯台守という職業をマスメディアの題材として取り上げ(原作は灯台守の妻の手記からヒントを得ている)、佐田啓二と高峰秀子が25年の歳月にわたる夫婦の哀歓を演じ、北は北海道納沙布岬から南は五島列島の女島まで全国15ヶ所に縦断ロケが敢行された。

(カラー スタンダード 160分)

## ■どん底



〔1957年 東宝〕

製作・監督・脚本……………黒澤 明  
 脚本……………小国 英雄  
 撮影……………山崎 市雄  
 照明……………森 茂  
 録音……………矢野口文雄  
 音楽……………佐藤 勝  
 美術……………村木与四郎

### 〔出演者〕

三船 敏郎 山田五十鈴 香川 京子  
 中村 鷹治郎 千秋 実 藤原 釜足  
 根岸 明美 清川 虹子 三井 弘次  
 東野英治郎 田中 春男 三好 栄子  
 左 卜全 渡辺 篤 上田吉二郎  
 藤 田 山

前作『蜘蛛巣城』で、シェークスピアの『マクベス』を戦国時代に置き換えて成功した黒澤監督が、引き続き、ロシアの作家ゴーリキーの同名戯曲(1902年)を、江戸時代の棟割長屋に翻案して映画化した作品。間口の広い、ほとんど朽ちかけた木賃宿で繰り広げられる行き場のない人間たちの葛藤劇。黒澤監督は、画面の密度を高めるために、綿密なリハーサルを重ねた俳優達を、複数のカメラで同時に撮影する方法を採用し、どん底に蠢く人々をダイナミックに表現した。

(白黒 スタンダード 125分)

## ■ぼんち



〔1960年 大映(京都)〕

原作……………山崎 豊子  
 脚本……………和田 夏十  
 〃……………市川 崑  
 監督……………市川 崑  
 撮影……………宮川 一夫  
 音楽……………芥川也寸志  
 美術……………西岡 善信

### 〔出演者〕

市川 雷蔵 京 マチコ 若尾 文子  
 越路 吹雪 草笛 光子 中村 玉緒  
 山田五十鈴 船越 英二 毛利 菊枝  
 北林 谷栄 林 成年 中村鷹治郎  
 菅井 一郎 倉田マユミ 浜村 純

『週刊新潮』に長期連載された山崎豊子の小説を映画化したもので、大阪船場を舞台に、四代続いた足袋問屋の一人息子が、女系家族の中で悪戦苦闘する様と多彩女性関係が年代記風に描かれている。映画では60才近くになった主人公が、戦争による苦難を乗り越えて再出発するにあたり、昔の事どもを回想するという形式がとられ、新旧の個性派女優の競演と熟演が見事である。また主演の若き二枚目スター市川雷蔵は、『炎上』( '58年)に続く現代劇への出演であるが、ここでは初めて(老け役)に挑戦している。

(カラー ワイド 104分)

## ■日本の悲劇



〔1953年 松竹(大船)〕

監督・脚本……………木下 恵介  
 撮影……………楠田 浩之  
 音楽……………木下 忠司  
 美術……………中村 公彦

### 〔出演者〕

望月 優子 桂木 洋子 田浦 正己  
 佐田 啓二 高橋 貞二 上原 謙  
 淡路 恵子 高杉 早苗 日守 新一  
 須賀不二夫 多々良 純 柳 永二郎  
 北林 谷栄

終戦後の混乱期を懸命に生きぬいた母、その母の生き方に批判的な子供たち。母の心情的主観と、子供たちに現れている戦後(当時)の現実が、鋭く対比的に描かれた木下恵介作品。叙情豊かな作風で知られている、木下監督がその情緒を排してリアルに描き、彼のもう一つの資質を示した代表作である。当時のニュース・フィルムや新聞記事を大胆に挿入したり、極端な長廻しの撮影を試みたり、意欲的な演出が際立つ作品で、木下監督自身ももっとも好きな作品だとのことである。主演の母の役は、当初は田中絹代を予定していたが、都合で望月優子に変更され、彼女の名演技の一つともなった。ぶっつけ本番で、撮影されたというラスト近くの、湯河原駅の投身の場面は、とりわけ印象深いものである。

(白黒 スタンダード 116分)

## ■雪之丞変化



〔1963年 大映(京都)〕

原作……………三上於菟吉  
 脚色……………伊藤 貞輔  
 〃……………衣笠貞之助  
 脚本……………和田 夏十  
 監督……………市川 崑  
 撮影……………小林 節雄  
 音楽……………芥川也寸志  
 〃……………八木 正生  
 美術……………西岡 善信  
 解説……………徳川 夢声

### 〔出演者〕

長谷川一夫 山本富士子 若尾 文子  
 市川 雷蔵 勝 新太郎 船越 英二  
 中村鷹治郎 林 成年 柳 永二郎  
 伊達 三郎 市川 中車 大辻 伺郎

この作品は、1927年に『稚児の剣法』で林長二郎としてデビューした大スターの、30数年に及ぶ功績を祝するため(長谷川一夫三百本記念)として作られ、彼はこの年の『江戸無情』を最後にスクリーンを離れた。時代劇の大スターで女形も演じられるのは彼のみであり、その資質を生かした1935年の『雪之丞変化』(衣笠貞之助監督)は空前の大ヒットとなつて、彼の代表作ともなった。当時の若手スターを配したこの再映画化作品では、時代劇を初めて手掛ける市川監督が、流麗な殺陣と斬新な映像美、ジャズ音楽を駆使して、長谷川の類まれな二枚目の魅力を改めて感じさせている。

(カラー ワイド 113分)